

# アマダイ通信NO. 131

(Tile fish network letter)

2019年 紫陽花蒼く

## 知人・友人各位

オリンピックまで1年余、施設の建設も急ピッチで進み、早や建設業界では受注減の声も聞かれるが、晴海の自宅マンションと道ひとつ隔てたオリンピック村は工事たけなわ。20棟余建つというタワーマンション、足場が外され綺麗な外観を現したのものもあるが「成長」するにつれ、我が家からの眺望は悪くなる一方。お台場や有明、レインボーブリッジのきらびやかな夜景が夜毎失われていく。おまけにオリンピック終了後、大手デベロッパー各社が、全面改装して5千戸以上売り出すという。供給過多で近隣のマンション相場を下落させたら、🐟の老後の設計も変更を迫られる！「プチブル」🐟の心配は募る。

## ◎道後温泉会館大改修、「全覆い工法」採用・・・元革命少年、建設革命に燃える！

顧問先のトータル環境が杉並清掃工場に続き、光が丘清掃工場建替えても「全覆い工法」で建物を解体。雨天でも土工事、生コン打ち、溶接作業などが出来、工期短縮に効果的と、鴻池組は解体が終わった部分から土工事も始め、土工事が終わるまで、テントで現場を覆う。工期が短縮され、人件費が低減、重機の損料も圧縮、4週8休の働き方改革にも貢献。JFE エンジ・清水建設で現在施工中の目黒清掃工場建替えては解体工事だけでなく、基礎工事が終わり、1階の床を張るまでテントを使うとのこと。昨年末、NHK 総合の特番「解体キングダムⅡ」で目黒の現場を放映、見所が多過ぎ煙突の解体までで終わる。3月にあらためて「解体キングダムⅢ」で本体の解体工事が放映され、再放送までされる。デヴィ夫人がキャスターとして登場、ご覧になった方も多いかも知れません。

日本最古の道後温泉のシンボル道後温泉会館の大改修でも、この「全覆い工法」が採用され、施工中。明治27年(1894年)建造の重要文化財の木造建築を、温泉の営業を続けながら、7年かけて半分ずつ改修する難工事。7年もの間、大型台風や集中豪雨などに耐えるのはトータル環境の「全覆い工法」ATMOS だけと設計変更。明治の名建築の半分を覆う白いテントは7月には完成、手塚治の「火の鳥」の派手なポップアートが施され、工事の意義をアピール、大いに話題になるでしょう。ユーチューブで「道後温泉会館」とクリックすると、始まったばかりですが、大改修工事の一部始終を見ることが出来ます。

これまで、ダイオキシンやアスベストなどのリスクのある清掃工場や火力発電所、化学プラントなどの解体工事で使われることが多かった顧問先のトータル環境の「全覆い工法」ATOMOS。古い博物館や美術館、寺社仏閣などの文化財、世界遺産の改修・保存工事などで、使い捨ての鉄骨の柱と梁をつなぎテントを張る「素屋根」に代わる、間柱もなく、天井も高い、使い勝手のいい大空間、短工期・ローコストの工法として、役に立てればと思います。又、地下深く掘る都市再開発プロジェクトでも、1階の床が出来上がるまで「全覆い工法」ATMOS を使用すれば、晴雨に関わらず工事が出来、工期短縮によるコストダウン、収益早期化・利息圧縮による事業収益改善、労働環境改善、完全週休2日の実現による働き方改革実現など、施工者、事業者・デベロッパー、職人の三者にメリットが出ます。

「前例踏襲」の世界で、新工法を広めるのは難儀ですが、元「革命少年」、「建設革命」を起こす気概で、「断られてからが営業！」と、粘り強く奮闘中。応援をお願い致します。

## ◎酪農にサヨナラ！・・なっちゃんと革ちゃん

NHKの朝の連ドラ「なつぞら」、高校を卒業したなっちゃんは東京に旅立つ。酪農の世界からアニメの世界へ。🐬は少年期を郵便局の革ちゃんと呼ばれて育ったが、「牛乳屋の革ちゃん」でもあった。物好きで世話好きな親父は、貧しい村人の生活を少しでも向上させようと、「生活改善運動」の旗を振った。村人の栄養状態を向上させようと、率先して山羊を飼い、乳を飲み、村人にも薦めた。勧められ山羊を飼う村人も多かった。又、寒い冬を温かい衣服で過ごせるよう綿羊の飼育も率先した。初夏には村中の雌綿羊が我が家の庭に集められ、村でただ一頭の我が家の雄綿羊は、朝から晩まで繁殖活動に励んだ。春先にはその成果品が又もや、我が家の庭に集められ、細く長い尻尾を穴の開いた板に通すと、焼けた鉄で挟まれ、ジュッという音と悲鳴、肉の焼ける臭いと共に、子羊の体と尻尾は離れる。一瞬のこと。余分な栄養が尻尾にいかないように、不衛生にならないようにとの配慮。山羊と同様、羊にも生まれた時には長い尻尾がある。

秋にも村中の綿羊が我が家の庭に集められる。寒い冬を乗り越えるために精一杯厚着したのに、突然ひっくり返され、両足を広げられ、バリカンで丸裸にされる悲劇。悲鳴を上げ、四本の足をジタバタするが、如何ともしがたい。夜になると広い通し客間の襖が取り払われ、畳1帖幅の廊下にも畳が敷かれる。カタログ片手の紡績会社のバイヤーと村人が綿羊の毛を毛糸に化けさせるか？生地にするか？熱い膝詰め談判。綿羊や山羊の世話は子供の仕事。我が家の庭に盛土、2つに分けて走る五能線の、冬には🐬専用グレンデになる、緑豊かな斜面の木に山羊や綿羊をつなぎ餌を食べさせ、敷き藁を替えて登校、下校すると家畜小屋に戻す。塾など行っている暇はなく、行くべき塾もない。

冬を前にした休日は家族総出でおにぎり持参、草刈山で草刈り、冬の間の家畜の餌を蓄えた。冬場、年取り、役目を終えた山羊や羊は肥溜めに積もった雪を紅く染め、カレーライスやシチュー、ジンギスカン鍋に姿を変え、家族の胃袋を満たすだけでなく、隣近所の冬場の貴重な蛋白源ともなった。食用にならない部分は用済みの家畜の敷藁、排泄物と共に微生物に分解され肥料となり、田畑に鍬き込まれ、米や野菜に姿を変えた。途上国では今もみられる児童労働も当たり前、貧しい物々交換経済の時代だった。

戦災孤児のなっちゃんは十勝の酪農家に育てられ、🐬も子牛の誕生に立ち合い、乳搾り、餌やりなど牛の世話。物好きで、世話好きな親父は乳牛も飼ったが、乳牛まで飼う村人は他に一人だけ。搾りたての牛乳を大鍋で煮沸、瓶に詰め村中に配って歩くのも子供の仕事、「牛乳屋の革ちゃん」誕生。初乳は黄色で売物にならず、牛乳風呂としゃれこむ。色白、ツルツルの🐬の肌はその賜物！？後足を蹴り上げピョンピョン走る子牛を散歩させるのも楽しむ。なっちゃんと革ちゃんは酪農体験を共有しながら、高校卒業と同時に共に酪農にサヨナラする。貧しい田舎では比較的恵まれた家庭で育ったなっちゃんと革ちゃん。片方はアニメーターとして、経済の高度成長に乗って、芸術の新ジャンルを開き、成功。他方は貧しい社会を根底から変えようと革命運動を志し、挫折、社会の底に滓の様に沈む。かつてインドの独立を目指す革命家チャンドラ・ボースを支援した新宿中村屋の厨房で、取り敢えず皿洗いしながらアニメーターを目指すなっちゃん。レーニンにも、毛沢東にも、中村屋にカレーをもたらしたチャンドラ・ボースにもなれなかった革ちゃん。

## ◎舌の根の乾かぬ内から

スキーにゴルフ、水泳と忙しく元気な筈の●、朝から、左手が痺れ、さらに左腕へ。左の唇から左顔面、その内左足も痺れる感じ。脳梗塞でもと心配に。旧友のK君が軽い脳梗塞で倒れたことを思い出し、電話。彼は急に歩けなくなったという。ネットで検索すると痺れはその前兆。取り敢えず掛りつけの三楽病院に事務所から電話。緊急対応出来ないとのことで救急車を呼ぶ。救急車で近くの順天堂病院へ。歩けるか？頭が痛くないか？吐き気がないか聞かれる。脳梗塞では力が入らず、歩けなくなる。脳出血では頭が痛くなったり、吐き気がする。幸い●は痺れだけで、梗塞や出血があっても軽そうだ！と一安心。一通り、心電図、血液検査、MRI、CT、レントゲンなどの検査。梗塞も出血もないが、(発症から4時間内なら血栓を薬で溶かせるから)痺れで救急車を呼んだのは正解と担当医。

娘が午後仕事を休んで病院に駆け付けてくれる。施設で日帰りのデイサービス中の妻やケアマネージャーと連絡を取り、通っている施設でそのままショートステイ出来るように手配してくれるが、その必要はなくなる。お父さんが倒れたら大変だったと胸を撫で下ろす娘。確かに要介護人を二人抱えて、仕事と子育てを続けるのは大変。何が悪いかわかってるでしょ！住宅ローン抱えたままで、働けなくなるとどうするの！孫息子の和と同伴出勤楽しめないでしょ！孫娘のメイとスキーも出来ないし、旅行にも行けなくなるわよ！コミュニケーションの達人、大手IT企業のやり手の人事課長、秋田生まれの誰かに似て色白、ふっくら、共同製造元も惚れ惚れする美形から、返す刀の厳しい言葉。

病院で娘と別れ、会計を済ますと顧問先に電話。舌の根も乾かぬ内に、キャンセルした夜の会食を復活。赤坂の能代高校後輩のスペイン料理屋グランヴィアで、生ハム、小エビのオリーブ油炒めとフックラパン、美味しいパエリアなどを当てに、ビール、白ワイン、赤いサングリアを楽しむ。取り敢えず住宅ローンを払い終える80歳まで、百薬の長と健康をどう両立させるか？それが問題だ！

### ◎水虫三態

土曜日、宅配の弁当をチェンジ、神様も間違おうようで、お昼に新旧2つの弁当がダブって来るという。仕方なく先に届いた弁当を●が食べる。要介護人は不味いというが、まずまず。学校給食の栄養士は味に厳しい。待っても新しい弁当が届かない。新しい弁当屋に連絡すると夕食からという。弁当を買いに走る。介護と掃除、まとめ買いで午前中潰れ、午後から前日の日経の読み残しを読み、プールに25分ほど浸かり600m泳ぐ。月島図書館は毎年恒例の一週間の休館で、豊洲図書館へ自転車を走らせ、経済誌を読む。

ゴルフもスキーもない日曜日、週一の三助。朝食と朝日新聞の後、風呂掃除。折り畳みの椅子を広げ、浴槽に座椅子と滑り止めマットを入れ、お湯を入れる。自分でする洗髪が済むと笛が鳴り、神様の呼び出し。足の指の間も洗う様にとのお告げ。病院で水虫を移されたという。2万円も2万5千円も差額ベッド代を払って、水虫を移されるとは、何という不運。一人娘なのに4男坊の誰かに新潟の小千谷から東京に拉致されて以来の不幸！？

●も中野刑務所で、毎日の運動や週2回の入浴など房外へ出る時に履くゴム草履から水虫が移ったよう。刑務所の浴場には横長の大きな浴槽が二つ。裸で一斉に横並び、湯気の立つ湯舟から柄杓でお湯を汲み、体にかけて、お尻と前を洗い、笛の音で一斉に次の湯舟に飛び込む。今一度笛が鳴ると飛び出し、石鹸で体を洗う。次の笛で石鹸を洗い落して二つ目の浴槽に飛び込み、温まる。次に笛の音がすると又飛び出し、至福の短い時間が終わる。

いつでも、どんな処でも悲喜交々、悲しみがあれば喜びもある。それが人間。

●の寄宿人の真菌君なんて可愛いもの。年に1回か2回、左足の指の間に小さな水疱をつくり、その粒々を破裂させ存在を主張する。真菌君との親近感がすっかり薄れていた宿主は、ようやく思い出す。粒々がなくなっても薬がなくなるまで、ずっと塗って下さい！と上井草の皮膚科の土橋君に言われていたのを。残った薬を塗って、粒々が消えると又、真菌君のことを忘れる、の繰り返し。一緒に棺桶に入って殉死して貰うしかないか！

同じ水虫と言っても大陸生まれ、日本育ちの親父の水虫は凄かった。昔郵便局は電話と電報も扱っていたので、郵便局長の親父は3回北支に徴兵されたが、通信兵。ドンパチの前線からは少し後方に配置されていたからか、3回とも無事生還。しかも戦地を離れていても、お国のために！「産めよ！殖やせよ！」と9人も子供を、未来の戦力を生産。結局、親父の深謀遠慮、付沢、「忠君愛国」は功を奏さなかったが、そんな親父と一緒に戦火を三度も潜り抜けた真菌君だから、凄かった。両足の裏を象の足裏の様に硬く、白く角質化させ、しかもひび割れまでさせていた。更に爪の間も棲みかにし、爪まで反りかえらせていた。親父は異形に節くれだった足に色々な薬を試していたが、薬効拙く水虫は生き延び、93才まで生きた親父と殉死。さぞかし本望だったろう。

## ◎中国文化大革命から半世紀

春休みの週末の午後、神奈川大学で、矢吹晋横市大名誉教授や大里浩秋神奈川大名誉教授が参加、「中国文化大革命研究会」。両名共三鷹寮と中国語クラスの先輩。矢吹さんには入学早々社学同にオルグされ、同郷の大館鳳鳴高校出身で2年先輩の大里さんとは寮で同室。「文化大革命」にも●なりのけりをつけ、この世とおさらばしたい。マルクスが未完で遺したマルクス主義。革命が成功、権力を奪取、生産手段を共有、「能力に応じて働き、働きに応じてとる」社会主義社会（共産主義の初期段階）が実現したとして、如何にして「能力に応じて働き、必要に応じてとる」共産主義段階に到るか？マルクスの解はない。

マルクスが考えた社会主義革命は「世界革命」、「世界」とは先進資本主義国のイギリス、フランス、精々ドイツまで。だが最初の社会主義革命は後進国ロシアで起こり、他国に波及し一気に世界革命として成就することはなかった。時を経て、第二次大戦を機に帝国からの解放、民族自決・社会主義革命の波がマルクス主義の旗の下、中国からインドシナ、キューバへと広がる。墓場のマルクスには思いがけぬ展開。「一国社会主義」は可能なのか？一国「社会主義」から「共産主義」への発展の方法は？マルクスの想定しなかったこの2つの問題に対する毛沢東の解が「中国文化大革命」。共産主義革命は社会主義段階から共産主義へと続く「永続革命」であり、「人間の魂を変える文化大革命」である！

「世界の農村が世界の都市を包囲する」世界革命だ！「魂を変える！」革命に●の若き魂も震える。若かったあの頃何も怖くなかった。これが答えだ！猪突猛進。あれから半世紀。


社会主義（初期共産主義）から共産主義への移行の可能性を孕むものとして現在の中国「電脳社会主義」を積極評価する向きもあるが、如何なものか？「能力に応じて働き、働きに応じて取る」（社会主義）段階にあるとしてもあの貧富の格差、党幹部の腐敗は許されていいのか？許されぬなら、「能力に応じて働き、必要に応じて取る」理想の共産主義社会はどのようにして実現するのか？マルクスは共産主義段階では労働は細分化され、単純な労働は機械が行うようになり、生産性が格段に向上、人間は単純な労働から解放され、

己の欲求に従って、創造的な活動に勤しむようになり、過度な欲望からも解放され、「能力に応じて働き、必要に応じて取る」社会になると予見。まさに共産主義は「電腦社会主義」の発展の先にあるが、格差を拡大再生産する現在の中国社会の発展の先にはではなく、格差解消の課程で初めて実現するのではないだろうか？

## の「東洋の奇跡クメール王朝の最高傑作アンコール遺跡巡り4日間」

(19. 5. 1~4、トラピックス)

### ①2度目のカンボジャに思う

年に2、3回海外を旅する旅行好き、好奇心の塊のが、まだ行ったことのない国や地域もある中で、「アンコール遺跡巡り」のタイトルに惹きつけられ、阪急旅行社に電話、2度目のカンボジャへ。てんこ盛りでスケジュールがきついと一部に不評だが、好奇心旺盛な人間には見処満載なのに安く、トラピックスをよく利用する。10連休の真ん中、5月1日~4日というスケジュールもいい。連休2日目の28日は仲間と埼玉の小川カントリーでゴルフ、車で北上、越後湯沢の娘のマンションに泊まり、翌日GALA湯沢で小4の孫娘とシーズン最後、15回目のスキー。4才の孫息子とは初めて雪遊び。帰国後も5日、6日とオーシャンビューの南房総江見のマンションで、潮騒を聞きながらゆっくり本を読む。

前回は内戦も終わり、地雷なども粗方処理され、世界から観光客を受け入れ始めた頃。JUSCOがカンボジャに小学校を寄付、完成を祝い現地の人々と交流するツアー。進出予定の国や地域に緑化協力したり、学校をつくったり、進出のための地均し。企業活動だが、一般のツアーよりハートを操られ参加。内戦が終わったばかりで外資の進出も少なく、復興は援助で賄われ、あれが日本の援助で出来た橋、この病院はドイツの援助と数え上げたら切りがなかった。道は凸凹、街灯もない道を照明もつけないバイクが4人、5人乗りで走り回る。ガソリンや灯油を小さな雑貨屋の店先で計り売り、粗末な高床式のあばら家の下で鶏や豚が餌を漁り、貧しいがのどかな時間が流れる。20年近くの歳月が流れ、長い内戦を経て中国の後押しを受けたポル・ポトから政権はベトナムの支援を受けたフンセンに代わり、長期化。先の総選挙では対立政党を解散させるなど、強権度を増している。

外資の力を借りた中国が世界の工場として力を蓄え、結果として賃金が上昇、より安い労働力を求め、アパレルなどの軽工業を始めとして外資のカンボジャ進出が目覚ましい。レーニンがいう「資本主義の不均等発展」(帝国主義論)。かつて日本が安い労働力を武器に「世界の工場」として経済発展、先進国の仲間入り。韓国、台湾が続き、中国が追う。カンボジャも続くことが出来るのか？望み通りJUSCOもカンボジャに店を構えた。フンセン開発独裁の下でカンボジャはどう変わったのか？この目で確かめたい。

2度目のカンボジャのタイトルは「アンコール遺跡巡り」だが遺跡よりは生身の人間とその社会、政治と経済、文化の現況をこの目で確かめたい。もとより、正味2日、3泊4日の駆け足で何がわかる？と思うが、見ると聞くでは矢張り違いがある。学者ほどではないが、人よりは活字を目にする。その上で、この目でカンボジャの現実を見、何を感じるか？要介護4の連れ合いには2週間ほど施設にショートステイして貰う。

### ②スカイライナー満席！雪隠詰？・カンボジャでリゾート

5月1日10時のフライトで8時成田集合、6時半に家を出、7時過ぎ京成上野へ。7時20分のスカイライナーにギリギリ間に合わず、7時27分の特急は8時56分着で遅すぎる。7時40分の満席のスカイライナーに指定なしで取り敢えず乗ることに。集合時間遅れは常習だが、指定券無しは初めて。「全席指定で、指定券なしではスカイライナーに乗れません」とアナウンスするが、日暮里から成田まではノンストップ。乗ってしまえば降りろとは言うまい、こっちのもの。不埒というか、大胆不敵というか？取り敢えず日暮里駅直前にトイレに身を隠し、雪隠詰、動き出してからデッキに。程なく車掌が来て、指定券無しを申告、初体験。小心者の●にとっては重大決心でも、車掌さんにとっては日常茶飯！？満席の筈なのに、空いてる席に案内してくれる。満席とは言っても都合で乗れない予約客は一定数いる。座席をゲット。同じ座席を2度売れるのだから京成にとっても悪い話ではない。建前は建前として、それでも8時32分空港着予定。5時前に起きてるのだから、パンとベーコンエッグを焼き、コーヒーを淹れ、ミニトマトを洗って食べたりせず、6時前に届いていた日経と朝日を持ってもっと早く家を出れば、或いは事前に指定券を取ればいいのだが、面倒なことは後回し、ギリギリまでやらないで、その切迫感まで楽しむ。多少のことではものに動じない、無神経な、結果オーライの親爺にどうして育ったのか。一番遅かったがチェックインには悠々セーフ。おまけに気の早い連中は搭乗ゲート前に長蛇の列をつくるのを横目に、枝豆をあてに大好きなさっぽろビール。

添乗員なしの安いツアー、慣れれば添乗員なしでも不都合はない。定刻に空港に行かなきゃと気を使うこともない。乗り継ぎがあると面倒だが、「transfer」の標示に従い、テレビ画面に表示される出発ゲートに向かえばいい。孫娘と一緒に最近の台湾と韓国ツアーは格安航空(LCC)で、食事も飲み物もなし。フルサービスのベトナム航空でハノイまで5時間、さらにカンボジャのシュムリアップまで1時間半の長旅とあれば、水平飛行に移った11時頃機内食と飲み物のサービスが始まる。サービスとは言え航空券代に含まれているので錯覚だが、サービスされるとやはり嬉しい、不思議。食前にスーパードライのショート缶を、食事の時に更にビールと白鶴のワンカップ、白ワインでいい気分。窓際の席の外は綿雲の世界が白く輝き、その上の水色の空とのコントラストが美しい。

時差2時間のハノイに5時間半のフライトで1時半過ぎ着。久振りのハノイは気温25度。4時間近くの滞在でシュムリアップに。夕食はなしというので、空港内のレストランへ。揚げ春巻で地ビールのタイガービールミニ缶2本飲み、ベトナム名物フォウ麺でメ。機内、空港と2、3日分溜まった朝日と日経に追われ、ようやく図書館で借りた「現代カンボジャを知るための60章」を読み始めるが、今頃巻頭から読むのでは道中で読みきれない。紀行文が先と諦め、携帯で朝からの顛末を打ち続ける。2度目のカンボジャはアンコールワットに近いシュムリアップから入る。予定外の軽食の機内食も出て、又もタイガービールを楽しむ。わかっていればハノイで早めの夕食をするんじゃないかな、食べ過ぎだ。

雨季に入ったばかりのシュムリアップに7時過ぎ到着。ボーディングブリッジはなく、タラップを降りて、珍しく徒歩でターミナルビルへ。8時過ぎホテル着。東京ドーム約6個分の広大な敷地に7百室以上の部屋を擁し、赤い瓦の大きな三角屋根、クリーム色の塗り壁の何棟もの建物が連なる。ソカシュムリアップリゾートはASEANなどの国際会議をするコンベンションホールも備える立派なリゾートホテル。天井も高く牧歌的なロビーは南国のリゾート。広い屋外プールも。40平米の部屋も洗面も広々、猫足の浴槽とゆったり

シャワーブース、床も立派なフローリング、洗面ボールまで木、ゆったりサイズのダブルベッドが2つ並ぶ。11月から4月までの乾季が終わり、日中の最高気温は38度とのこと。雨季はスコールもある。初日は丸々移動で潰れるが、猫足の大きな浴槽に身を沈め、旅の疲れを癒す。(続く)

## 企業優先政策から家計ファーストへの大転換を

### ・東大三鷹クラブ第145回定例懇談会のご案内

三鷹クラブ定例会は、平成7年5月以来、2ヵ月に1回の割合で開催を重ね、この5月で144回、その中で、最近3年～4年の節目ごとに、中前忠さん(中前国際経済研究所代表 昭和33年入寮)に、その時点での経済情勢についてホットな話題を提供していただいています。中前さんは、いつの回でも、詳細な分析資料を用意して来られます。その数字に裏打ちされた説明には聴衆を納得させる力があります。また、常に米国や中国などの動向を把握し、国際的なひろがり念頭に置いておられます。

昨年後半あたりから、わが国の景気にもかげりが見えはじめ、その不安要因の多くが中国経済の停滞や、米中の貿易戦争の激化などに関連するだけに、2019年中に是非中前さんをお呼びしたいとの思いが強くなりました。折良く1月15日の会に中前さんが参加されたので、私から声をかけ、今回の企画が実現しました。

ほどなく、中前さんから「家計ファーストの経済学」と題する御本が、私あてに届きました。1月23日付で日本経済新聞出版社から刊行されたばかりの新著でした。私がまず敬服したのは、80才近い中前さんが、300頁に上る大論文をまとめられた力に対してです。そして何よりも、表題が示す様な経済運営の基軸の大転換を具体的に提案しておられる、迫力ある内容に驚かされました。

中前さんは、好調な世界経済を演出して来た、株価や不動産など資産バブル、ITに見られる巨大な技術革新バブル、中国をはじめとする工業化の過熱など新興国バブルは、それぞれ行きづまり、2020年に向け、急速に崩壊して行くことを想定しておられます。これらトリプルバブルの支えとなって来たアメリカなどの過去に例を見ない金融緩和の流れが正常化に向いつつあり、過剰なマネーサプライは大幅に縮小せざるをえず、その過程で、リーマンショックを上回る金融危機に陥ることも不可避と見られるからです。

債務負担の大きい中国その他の新興国で、危機はすでに現実のものとなっています。日本も、遠からず、新たな危機的事態に向き合わねばなりません。その際の処方箋が家計ファーストの経済運営の提案であり、具体的方策として①消費税の廃止(企業課税の強化)②貯金金利の引上げ③円高促進④消費拡大→売上げ増→賃金引上げの循環⑤仮称第二自衛隊による職業再訓練の制度化を挙げておられます。いずれにしても、現在の経済運営の常識を全く覆えすものであり、中前さんのお話を傾聴するとともに、出席者の間で白熱した議論が展開されることを期待しています。(平賀 記)

日時：令和元年7月9日(火) 18時30分～21時

場所：学士会館本館203号室(千代田区神田錦町3-28 TEL 03-3292-5931)

会費：6000円(会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み)

二次会：別途有志による二次会を、すずらん通の中国料理店 SANKOUEN にて開催予定

定員：50名（先着順：定員を超えない限り特に連絡は致しません）

申込先：平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

（有）ティエフネットワーク Email：tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

### ◎味は文化です！19年①交流会

6月1日（土）6時から赤門前のチャンコ浅瀬川で、寮生と交流会。大横綱大鵬の連勝記録をストップさせ金星の前頭筆頭浅瀬川が始めた、相撲部屋のちゃんこを老若男女27名で楽しみ、事務所で乾き物で二次会。次代の日本と世界を担う若者達と遅くまで交流。男女・留学生共住の現在の三鷹寮、来日する留学生だけでなく、外国に留学する者も。自国の文化を知らずして国際交流は深まらない。「味」も又、文化。互いの交流のためにもそれぞれの文化を学び合うのは、大変有意義。日本人の寮生も相撲部屋の「元祖チャンコ」を食べた者は少ないが、留学生の皆さん共々、日本の食文化を味わい、併せて、新入寮生、MSC、院生会、留学生、OBの顔合わせ・交流の場となれば幸いと、学生諸君は会費無料。

今回は冒頭、医学と工学の学際領域を目指して44年の赤池敏宏東工大名誉教授（1965年入寮）が「再生医療の可能性と問題点」を簡単に分かりやすく話し、同期のJICAのOB山形洋一さんが、アジア、アフリカでの国際貢献の足跡を語ってくれる。以下が参加者。

唐津裕貴（2008・理Ⅰ 理学部数学科→数理科学研究科→藝大 作曲科2年・淳心学院）、阿部祥拓（2016・医学部医学科・山形）、竹内碧（2016・理Ⅱ 薬学部薬科学科・高知学芸）、韓旭（2017・医学部研究生・中国・南通・前橋工科大）、柏田祐樹（2017（院）・理学系研究科天文学専攻・埼玉・栄東）、遠藤菜々子（2017・文Ⅲ 医学部健康総合科学科・浜松西）、花畑三華（2017・文Ⅲ 工学部建築学科・小松）、ラーリック寿里晏（2017・理Ⅱ 農学部獣医学・茨城・水城）、脇山由基（2017・理Ⅱ 理学部生物学科・唐津東）、孫銘沢（2018・理Ⅰ 計数工学・中国・瀋陽）、鶴山和人（2018・理Ⅱ・金沢泉丘）、橋本涼太郎（2018・文Ⅱ・大分豊府）、田名部琉（2019・文Ⅱ・嵯峨野）、前田亮真（2019・理Ⅰ・愛知・滝）、OBが青山絵里香（2016・文Ⅲ 文学部人文学科東洋史学・愛知・一宮）、園田夢之介（2015・文Ⅲ 教養学部学際科学科・帯広柏葉）、北條新之介（2015（院）・総合文化研究科地域文化研究専攻アジア科中国・真岡→東北大）、徳永悠希（2014・理Ⅰ 農学部生物素材化学・甲陽学院）、渡邊聡（2008・理Ⅱ 理学部数学科→京大理学研究科修士→2015・総合文化研究科博士・秋田）、國枝明弘【春風亭昇吉】（2003・文Ⅱ 経済・岡山・城東）、前田和孝（2003・文Ⅰ 法学部・灘）、松沢陽一（1968・理Ⅰ・高岡）、（1966・文Ⅰ 法学部・能代）、赤池敏宏（1965・理Ⅰ・大手前）、辰紘（1965・文Ⅰ 教養学部教養学科国際関係論・三国丘）、山形洋一（1965・理Ⅱ・天王寺）、安藤誠四郎（1962・理Ⅰ・福岡・修猷館）。

### ◎結びに替えて・・・ゴルフのお誘い

隔週日曜日 2、3組で仲間とゴルフを楽しむ埼玉の小川カントリー。春秋でもメンバー同伴、休日セルフプレーのビジターフィーが食事付き13800円、夏冬は食事なし9600円とお手頃価格。車で関越道嵐山小川インターから10分、電車は池袋から20分間隔の東武快速急行で70分、クラブバスで10分。東武鉄道の株を買い株主優待で通う仲間も。木々の緑と季節の花々を愛でながら、新鮮な空気を吸う。打っては歩き、食事と会話を楽しむだけですが、一緒に気楽にゴルフを楽しみませんか？興味のある方は☎にご連絡を！再見！